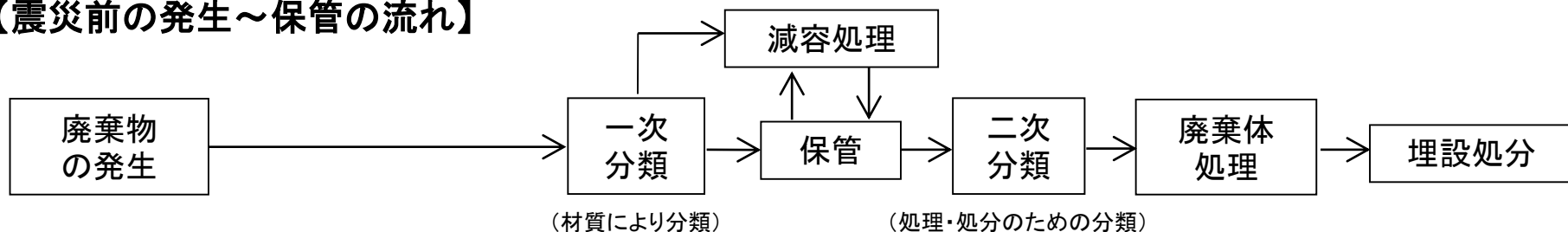


廃棄物の分類について

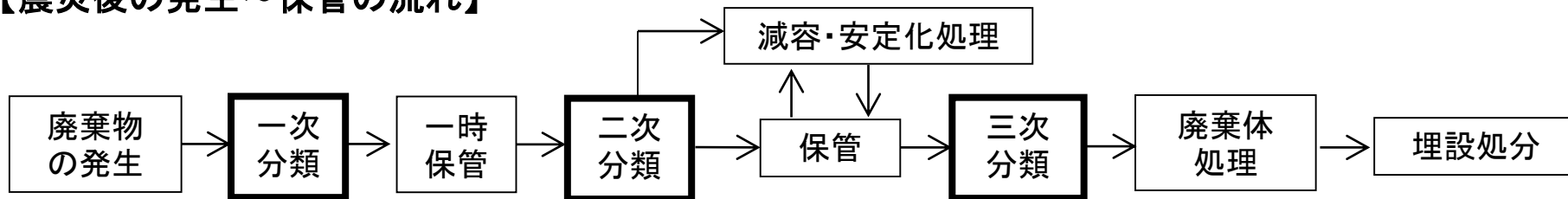
2016年2月12日
東京電力株式会社

1. 廃棄物の分類の考え方

【震災前の発生～保管の流れ】



【震災後の発生～保管の流れ】



【震災後の分類の考え方】

➤ 一次分類

- ・瓦礫類は放射性物質の汚染拡大防止や遮蔽の観点より、線量区分毎に分類。さらに、被ばくを考慮し、可能な範囲で減容処理に向けた材質ごとに分類
- ・伐採木は火災の発生リスクや線量の観点より、幹・根と枝・葉に分類
- ・水処理二次廃棄物はその性状により、吸着塔類、廃スラッジ及び濃縮廃液に分類

➤ 二次分類

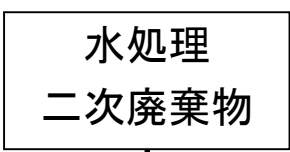
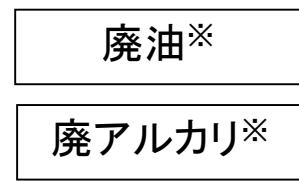
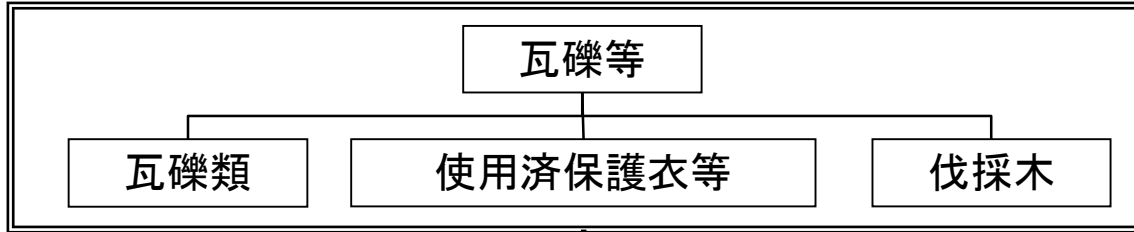
- ・材質により減容・安定化処理を考慮して分類。また、処理・処分の検討の進捗に応じて見直していく

➤ 三次分類

- ・処理・処分の検討の進捗に応じて分類

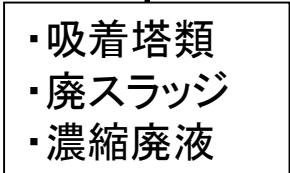
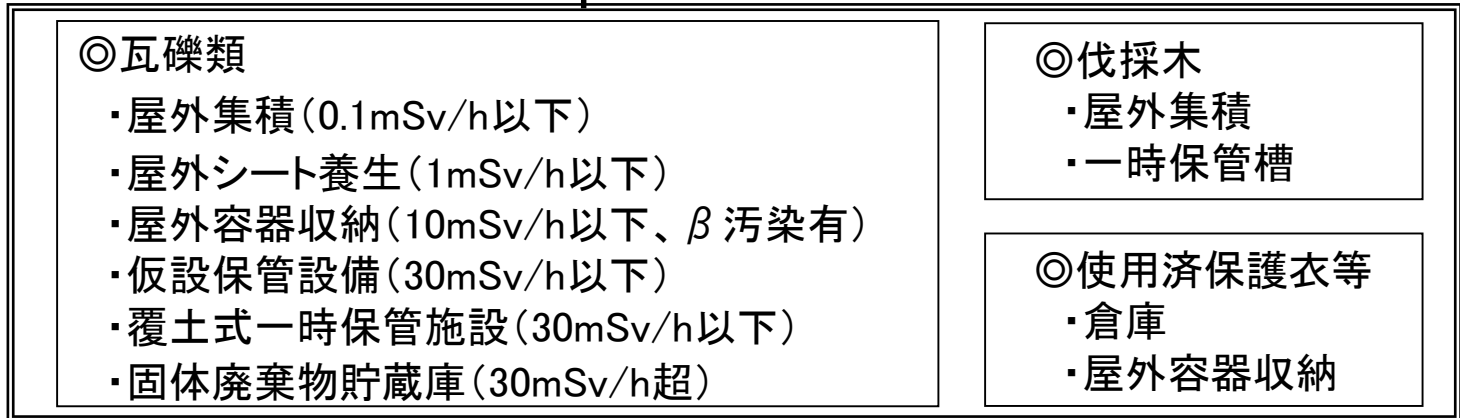
2. 分類の考え方

廃棄物発生

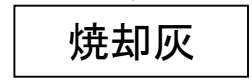
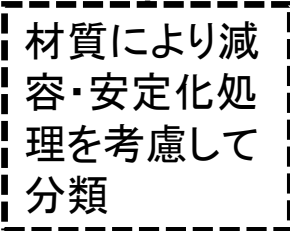
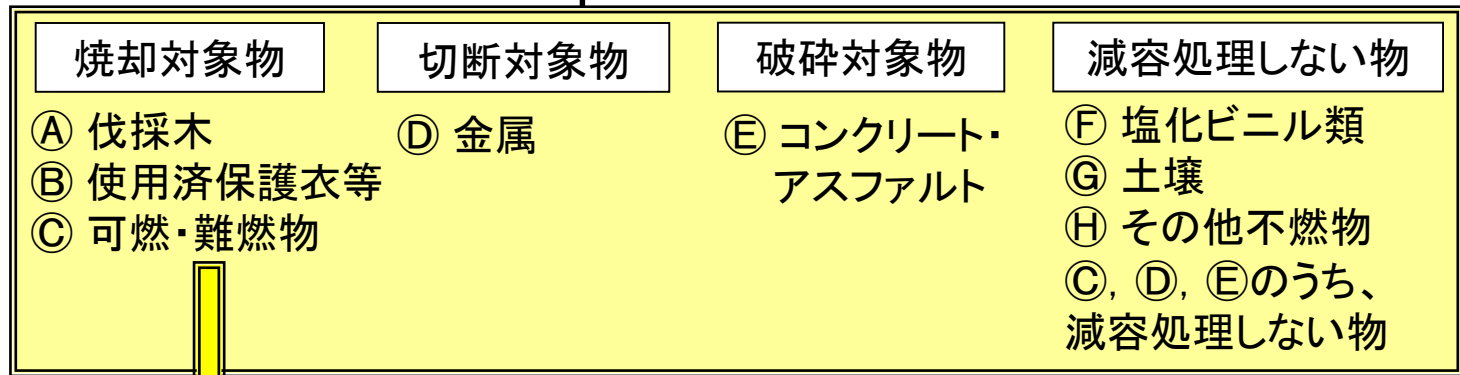


※ 所定の保管場所にて保管管理している。

一次分類



二次分類



3. 具体的な分類表

原子力規制庁殿提示※1の分類	弊社の二次分類	弊社の三次分類
① 伐採木	Ⓐ 伐採木	処理・処分の検討の進捗に応じて分類 (分類方法の例:放射化特性、FPガスとの接触の有無、滞留水との接触の有無、Cs除去の有無)
② 使用済保護衣	Ⓑ 使用済保護衣等※2	
③ 木質	Ⓒ 可燃・難燃物※3	
④ ゴム	Ⓒ 可燃・難燃物※3	
⑤ プラスチック	Ⓒ 可燃・難燃物※3	
	Ⓕ 塩化ビニル類	
⑥ 廃油	—	
⑦ その他可燃物	Ⓒ 可燃・難燃物※3	
⑧ 水処理二次廃棄物	材質により減容・安定化処理を考慮して分類	
⑨ コンクリート	Ⓔ コンクリート・アスファルト	
⑩ 金属	Ⓓ 金属	
⑪ ガラス	Ⓖ その他不燃物	
⑫ 焼却灰	—	
⑬ 廃アルカリ	—	
⑭ 廃フィルタ	Ⓒ 可燃・難燃物※3	
	Ⓖ その他不燃物	
⑮ 土壌	Ⓖ 土壌	
⑯ その他非可燃物	Ⓖ その他不燃物	

※1 第1回特定原子力施設放射性廃棄物規制検討会 資料2 別紙1より

※3 増設雑固体廃棄物焼却設備の仕様により、分類を見直すこともある

※2 不織布カバーオール、下着類、靴下等、マスク等、ゴム手袋等に分類

4. 瓦礫類の一次分類の方法

- ◆瓦礫類は表面線量率(γ 線)を測定し、線量区分毎に一時保管している
 - 屋外集積(0.1mSv/h以下)、屋外シート養生(1mSv/h以下)、仮設保管設備(30mSv/h以下)、覆土式一時保管施設(30mSv/h以下)に一時保管する瓦礫類は、運搬単位で測定
 - 屋外容器収納(10mSv/h以下)、固体廃棄物貯蔵庫(30mSv/h超)に一時保管する瓦礫類は、容器単位で測定
- ◆また、放射性Cs除去以降の汚染水処理設備の配管等は、Sr-90による汚染が主体となる。このため、「高 β ・低 γ 組成」の特徴をもつ可能性がある瓦礫類については、 γ 線に加え β 線の線量率を測定し、保管形態を決定している
 - 表面線量率(γ 線)が1mSv/h未満の瓦礫類でも、「高 β ・低 γ 組成」の特徴をもつ可能性がある瓦礫類は表面線量率(β 線)を測定し、0.01mSv/h以上(β 線)は容器収納等を実施
- ◆1～3号機原子炉建屋内や建屋内滞留水を保有するエリアから発生する瓦礫類については、 α 線放出核種による汚染の可能性があるため、確実な保管管理方法を検討していく。
 - γ 線の線量率の高い瓦礫類は、一次分類として、容器収納して固体廃棄物貯蔵庫に保管など汚染拡大防止対策を講じている。
 - なお、容器収納を行わない γ 線の線量率が低い瓦礫類については、以下のような保管管理方法を検討していく。
 - ・ α 線放出核種の表面汚染密度を測定して保管形態を決定する
 - ・ γ 線の線量率の高低に係わらず容器に収納する
 - ・当該場所の α 線放出核種による汚染度合いの把握する

【参考】瓦礫等の分類状況

種類	一次分類	現在の状況(2015年12月末時点)
瓦礫類	屋外集積	金属ガラ(39,600m ³), コンクリート・アスファルトガラ(27,800m ³), 土砂(12,500m ³), 可燃・難燃物(24,800m ³), その他(8,900m ³)
	屋外シート養生	土砂(300m ³), 土砂以外(31,100m ³)
	屋外容器収納※1	工事現場で瓦礫類を容器に収納するが、瓦礫類の表面線量率が高いため、作業員の被ばくの観点より、可能な範囲で分類を実施(6,500m ³)
	仮設保管設備※1 覆土式一時保管施設※1	1~4号機の建屋を構成していたコンクリートや鉄鋼材、各建屋に設置していた配管、ケーブル等を対象としているが、分類はしていない(13,100m ³)
	固体廃棄物貯蔵庫※1	容器に収納(6,000m ³)
伐採木	屋外集積	幹・根(64,300m ³), 枝・葉(2,400m ³)
	一時保管槽	枝・葉※2(18,400m ³)
使用済 保護衣等	倉庫, 屋外容器収納	カバーオール(33,700m ³), 下着類(14,000m ³), その他(18,400m ³)

※1 今後実施する減容処理や、保管形態変更のための取り出しに際し、分類を行う予定

※2 震災直後の伐採分は、根も含まれる